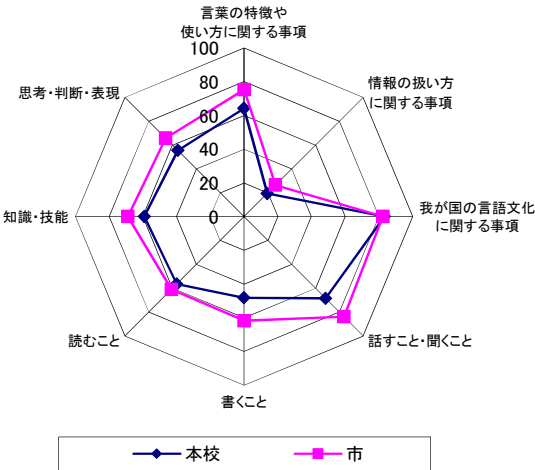


宇都宮市立城山東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.1	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	19.4	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	83.3	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	68.5	83.9	84.2
	書くこと	48.1	61.7	64.5
	読むこと	56.5	60.9	61.0
観点別	知識・技能	59.1	68.8	70.3
	思考・判断・表現	55.6	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

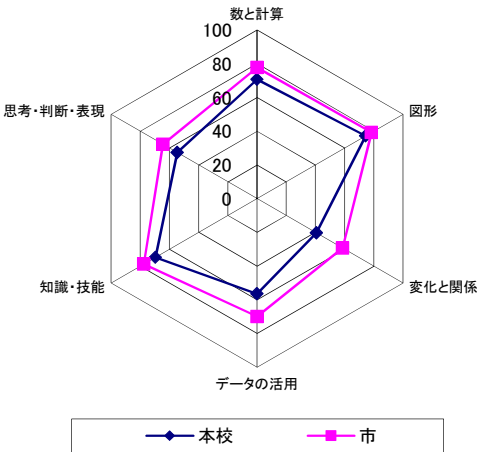
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	・漢字の読み書きの設問では、読みについての正答率が9割を超えており、理解していると言える。しかしながら、書く設問では正答率が大きく下がっており、正しく書くことについて課題が見られる。 ・言葉の学習については、三字の熟語の成り立ちの理解については、正答率が低く課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、ぐんぐんタイムやAIDドリル等を活用し、既習内容の定着を図ることを継続しながら、小テスト等「書く」学習を意図的に取り入れていきたい。 ・熟語の成り立ちや漢字の成り立ちなど丁寧に指導し、多くの文章に親しんだり、語源に関心がもてるような場を設けたりしていく。
情報の扱い方 に関する事項	・情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理しているかの設問では、正答率が低くなっており課題が見られる。 ・目的に応じて、文章を簡単に書く設問では、正答率が低く、課題が見られる。	・情報と情報との関係を理解するため、得た情報を絵や図などにして可視化して理解を深めたり、情報の分類の仕方を丁寧に指導したりして、理解を深めていきたい。 ・原因と結果に関係を見出し、結び付けて捉えることができるよう、文章の構成を考えたり表現をしたりする指導を意図的に行う。
我が国の言語文化 に関する事項	語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語の理解についての正答率が8割を超えており、理解できていると言える。	・漢字の読み書きの学習の中で、1人1台端末を活用し、漢字の由来や成り立ちについて学ぶ機会を設け、定着を図る。 ・和語、漢語、外来語については、学習活動内に漢字辞典や国語辞典を意図的に取り入れ、読み書きだけでなく、意味を正しく理解できるよう指導していく。
話すこと・聞くこと	・話の内容を捉える設問については、正答率が7割にとどまっている。 ・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える設問では、正答率が5割程度となっており課題が見られる。	・目的を明確にしてから話す、聞く活動を行うことで、話す力や聞く力の定着を図る。 ・「考えときのヒント(比べる、つなげる、分類する、等)」や「みんなで学び合い伝え合おう」の教室掲示を活用し、丁寧に指導する。 ・1人1台端末を活用した意見交換の場や、自分の意見を自分の言葉で発表する場面を意図的に設けていく。
書くこと	・目的や意図に応じて、書き表し方を工夫しているか、自分の意見とその理由を明確にして書いているかの設問では、正答率が7割を超えており、おおむね身に付いていると言える。 ・予想される反論とそれに対する意見を書く設問では、正答率が低く、自分の考えをもち表現する力についての課題が見られる。	・朝の会や帰りの会、学級活動等で、自分の意見を発表する場(1分間スピーチ)を設け、テーマに沿って自分の考えをもち、文章で表現する力の定着を図るなど工夫していきたい。 ・3行日記などを朝の活動や宿題等に取り入れることで、指定された長さで文章を書く力の向上に努めたい。
読むこと	・物語の内容を読み取る設問では、正答率が約8割となっており、登場人物の心情を捉えたり、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げたりすることについて、おおむね理解できていると言える。 ・情報と情報との関係性について理解し、文章の情報を整理する設問では、正答率が低く課題が見られる。	・物語文の学習や説明文の学習では、文章の全体の構成と段落ごとの要旨から文章全体の構成を捉えることができるよう丁寧に指導し、理解の定着を図る。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	70.7	77.7	78.6
	図形	74.4	78.4	74.4
	変化と関係	40.7	58.7	53.0
	データの活用	56.5	69.9	57.2
観点別	知識・技能	69.6	77.5	74.0
	思考・判断・表現	54.8	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

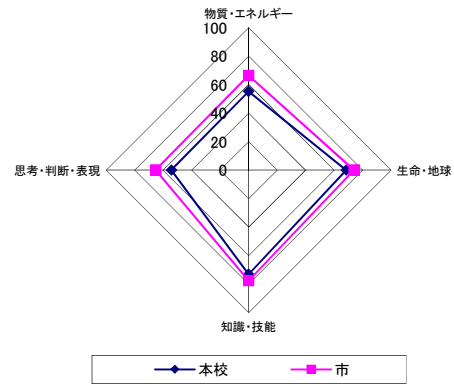
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・小数のわり算の計算では、正答率が9割を超え、理解できていると言える。 ・基準量が分数の場合において、比較量を求める問題では、正答率が約4割、比較量が基準量の何倍かを求める式を選ぶ問題では、正答率が5割であり、分数を用いた立式や問題文の理解に課題が見られる。	・小数や分数の計算では、計算するだけではなく、問題場面を把握するために、図や数直線に表してから立式する経験を積み重ね、理解が深められるようにしていく。
図形	・対称の中心についての問題では、正答率が10割であり十分に理解できていると言える。 ・四角形の内角の和や2つの外角が与えられた三角形の外角を求める問題、底面積と高さから角柱の体積を求める問題では、正答率が低く、図形の性質の理解に課題が見られる。	・朝の学習や復習の時間を使って、図形の内角の和や外角について、また、三角柱の体積の求め方について、繰り返し復習することで定着を図る。
変化と関係	・分速を秒速や時速に直す問題では、正答率が3割に満たず、速さの単位の関係について課題が見られる。 ・割引後の値段を求める式を選ぶ問題では、正答率が5割に満たず、百分率への理解に課題が見られる。	・単位量当たりの大きさや速さについては、問題文から基準量や比較量はどれか、それぞれ何を表しているかを読み取るよう、朝の学習等で復習をし、定着を図る。 ・速さについては、式をそのまま覚えるのではなく、生活の中での時間と距離、速さの関係を結び付けて考えていけるようにしていく。
データの活用	・円グラフから割合を読み取る問題や、表から平均を求める問題では、正答率が8割を超えており理解できていると言える。 ・ドットプロットから最頻値と中央値を読み取る問題では、正答率が3割に満たず課題が見られる。	・算数だけではなく他教科においても、学習した平均値や代表値などのデータやグラフの読み取りを取り入れる場面を設け、理解を深めさせたい。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	55.2	66.5	66.3
	生命・地球	68.5	74.0	72.6
観点別	知識・技能	73.1	77.6	78.2
	思考・判断・表現	54.2	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

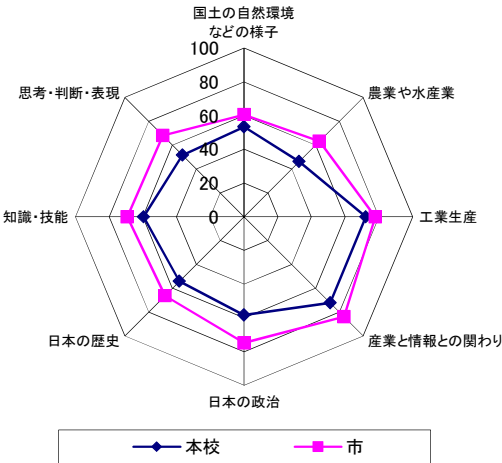
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・水溶液を用いた適切な実験の行い方を問う設問で、全員が正答した。また、実験の結果から、水溶液の種類を特定する設問では、正答率が8割を超えた。一方で、未知の水溶液を特定する実験の計画を問う設問では、正答率が2割を下回った。 ・電磁石のはたらきが電流の大きさや導線の巻き数によることを理解し、おもちゃの車の走る距離を推測する設問では、正答率が8割を超えた。 ・ふりこの周期がふりこの長さによって決まることを説明する設問や、振れ幅を変えてもふりこの周期は変わらないことを問う設問で、正答率が3割を下回った。	・ふりこの学習では、ふりこの長さや重さ、振れ幅の条件を変えて実験を行い比較考察することから、ふりこの周期について理解を深める。 ・水溶液の学習では、塩酸・水酸化ナトリウム・石灰水などの水溶液の性質を、実験を通して理解が深め知識が定着するように復習を図る。
生命・地球	・台風の発生と進路を問う設問で、正答率が9割を超えた。 ・ホウセンカの葉にかぶせた袋の中が曇ることと蒸散との関係を問う設問で、正答率が9割を超えた。 ・月と太陽の軌道模型から、何を月と太陽に見立てているかを問う設問で、全員が正答した。 ・唾液によってでんぷんがどのように変化するかを問う設問で、正答率が5割を下回った。また、「消化」と記述する設問では、正答率が3割を下回った。 ・対照実験の目的を指摘する設問で、正答率が6割を下回った。	・動物のからだのつくりとはたらきの学習では、実験に用いる試薬の反応と、実験結果とを結び付け理解を深める。また、学習用語の理解と定着のために、繰り返し復習を行う。 ・植物のつくりとはたらきの学習では、植物の成長に必要な条件と発芽に必要な条件を区別整理し、理解を深めるようにする。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	53.3	60.5	65.8
	農業や水産業	46.3	63.3	66.0
	工業生産	72.2	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	72.2	83.8	76.6
	日本の政治	58.3	74.9	74.1
	日本の歴史	54.2	66.3	68.3
観点別	知識・技能	59.6	69.3	71.4
	思考・判断・表現	51.6	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・日本の周辺の海洋について問う設問では、正答率が約9割とよく理解しているといえる。 ・雨温図に着目して、太平洋側の気候の特色を問う設問では、正答率が約7割となっているが、季節風についての理解が十分ではない。 ・日本の主な地形の名称と位置について、地図をもとに読み取る設問については課題が見られた。	・海洋に囲まれ、多数の島からなる国土の構成については、今後も世界地図や日本地図などの掲示資料を活用し、理解を深められるようにしていく。また、日本とつながりのある諸国との関係についても、その都度場所を確認するなど、自ら確認する環境を整え、関連付けて学習できるようにしていく。
農業や水産業	・輸入などの外国との関わりについてを問う設問では、正答率が約7割となっており、食料の輸入量が増えることの問題点については理解していた。 ・日本の主な食料の自給率についてを問う設問については正答率が低く、課題が見られた。	・資料やグラフの数値などの比較の仕方など、資料から考えを表現する活動を多く取り入れ、理解を深める。 ・食料生産に関わる人々の工夫や、外国との関わりについて自分の考えをもち、表現できるようにしていく。
工業生産	・自動車の製造工程についてを問う設問については、正答率が約9割とよく理解しているといえる。 ・自動車の部品を再利用する目的について考える設問では、正答率が約7割となっており、資料から読み取る力がついてきているといえる。	・教科書や資料集だけでなく、デジタル教科書や動画を活用し、視覚的に理解することができるようにする。 ・工場の立地や交通網の広がりや、外国との関わりなどに着目し、輸出・輸入の様子を捉えられるようにしていく。
産業と情報との関わり	・情報の発信と受信の注意点について問う設問では、正答率が10割とよく理解しているといえる。 ・産業における情報活用の現状について考える設問では、正答率が低く、課題が見られた。	・身の回りの情報メディアの特徴や活用方法を理解させるとともに、活用するうえでの注意点にも目を向け、自分の生活と結び付けて考えられるようにしていく。
日本の政治	・平和主義の基本的な考え方を問う設問では、正答率が9割とよく理解しているといえる。 ・租税の役割について、グラフと文章から読み取る設問では、正答率が低く課題が見られた。 ・議会政治について資料をもとに考え、説明する設問では、無回答が多く、課題が見られた。	・日本国憲法にはどのような考えがあり、くらしとどのようにつながっているかを話し合うなど、考えを深められるようにしていく。 ・国会・内閣・裁判所への国民の役割について復習したり、国や県・市が行う事業に税金が使われていることを関連付け、政治への関心を高めたりして、考えをまとめられるようにしていく。
日本の歴史	・鎌倉幕府の政治や江戸時代の政策については、正答率が7割をこえており、理解している児童が多い。 ・平安時代の出来事について、資料や文章から読み取る設問については、正答率が低く、課題が見られた。 ・室町時代の文化について問う設問では、人物と作品が結び付いておらず、正答率が低かった。	・時代ごとに、政策や文化の発展で中心となった人物を整理することで定着を図る。 ・資料をもとに、気付いたことを話し合う機会を取り入れ、時代の流れを資料や年表から読み取れるようにしていく。

宇都宮市立城山東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により基礎基本の定着を図る学習の充実	・「宮っ子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算・図形・量)」の計画的な実施 ・「城山ぐんぐん式」(国語・算数プリント)の実施 ・朝の学習(ぐんぐんタイム)におけるT・T(複数の教員での指導)ぐんぐん応援隊の実施 ・既習の計算を織り交ぜた復習問題の実施	国語、算数ともに、正答率が市の平均を下回ったものが多かった。漢字や計算等の復習を繰り返し行い、一つ一つの学習をさらにしっかりと取り組むことで、確かな力を着けたい。 アンケートにおける「学校の授業がどの程度分かりますか」(3年生以上)の設問では、9割以上が肯定的な回答をしている。しかし「勉強が好きですか」の設問では、学年が上がるごとに肯定的割合が下がり、学年が上がるにつれて学習内容が難しくなってきたことが原因と思われる。学習への意欲が高められるよう、児童の実態に合わせた分かりやすい授業の実践を進めたい。
思考力・表現力を育むための効果的な指導の充実	・「考えるときのヒント」の活用(比べる、つなげる、分類する、理由づける、見通す等) ・話し合い活動の日常化(ペア・グループ等) ・「めあて・まとめ・振り返り」の黒板掲示活用 ・話し合いのねらいと視点の明確化 ・指導法についての校内研修の実施	アンケートにおいて、「ものごとを比べながら(中学年)いろいろな視点や立場から(高学年)考えている」と回答した児童は約5～8割であり、学年によってばらつきがあった。学習内容定着度調査における「思考・判断・表現」の観点を見ると、国語、社会、算数、理科ともに市の平均を下回っている。引き続き、ねらいを明確化しながら「考えるときのヒント」を活用していきたい。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・「家庭学習の手引き」の活用(児童・保護者) ・地域学校園共通の合言葉「宿題プラス1」の周知・徹底 ・年2回の「家庭学習がんばり週間」の実施	アンケートにおける一日の学習時間を見ると、どの学年も地域学校園で目安としている時間(低学年…20分、中学年…40分、高学年…1時間)の家庭学習がおおむねできていることが分かるが、休日の学習時間については、「ほとんどしない」の割合が高かった。 「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」(4～6年生)については、肯定割合が約7～8割だったが、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」については、約4～5割と市の平均を下回った。引き続き「宿題+1」を合言葉に、進めていきたい。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・今年度は特に、朝の学習時における「城山ぐんぐん式」を実施し、複数体制での指導で、基礎・基本の定着に力を入れてきた。各学年での単元テストや学年のまとめのテストにおける結果を見ると、基本の問題において少しずつ成果が出てきている。次年度も引き続き、宮っ子学習ステップアップシートの活用や城山ぐんぐん式の活用、既習の計算を織り交ぜた復習問題の作成と活用、朝の学習におけるT・T(ぐんぐん応援隊)の充実等により、基礎・基本の定着を図っていく。

・今年度は、意欲を高める課題や提示を工夫し、身近な生活の場面に置き換えたり、目的意識をもたせたりしながら学習を進めてきた。また、自分の思考イメージの外化を行うことで、話し合い活動の充実を積極的に行ってきた。友達と自分の考えを比べたり、分類したり、理由付けたりと、学校全体で「考えるときのヒント(思考のすべ)」について研究し、思考力・表現力の育成に取り組んだ。6年生の定着度調査「ものごとを色々な視点や立場から考えている」の肯定割合からも少しずつではあるが成果が出てきているので、次年度も、話し合い活動を充実させるとともに、「考えるときのヒント」をさらに活用し、思考力・表現力の育成を図っていく。

・家庭学習については、次年度も、学校全体での共通理解のもと、地域学校園共通の合言葉「宿題プラス1」や「家庭学習頑張り週間」を進めていきたい。